

たねまき時^すしらずは桃^{もも}の花に聞け 半咲^{はんかき}きする折^おりがよきなり

(苗代^{なわしろ}に種をまくときのわからない人は、桃の花に聞きなさい。半分さいたときが、ちょうどよいときなのです。)

農作業のことばかりでなく、農民としての、ふだんの心がけについてよんだ歌もありました。

見にまわるその道すじの人の田の、水ひる見なばかけてやれかし

(田の水を見にまわったとき、ほかの人の田であっても、水がなかったらかけてやりたいものです。)

農の道知らずば人に聞くがよし かしこきふりは見るもはずかし

(農業のやりかたがよくわからないときは、人に聞いた方がよい。知ったふりをして、まちがったことをしているのは、それこそ、はずかしいことですよ。)